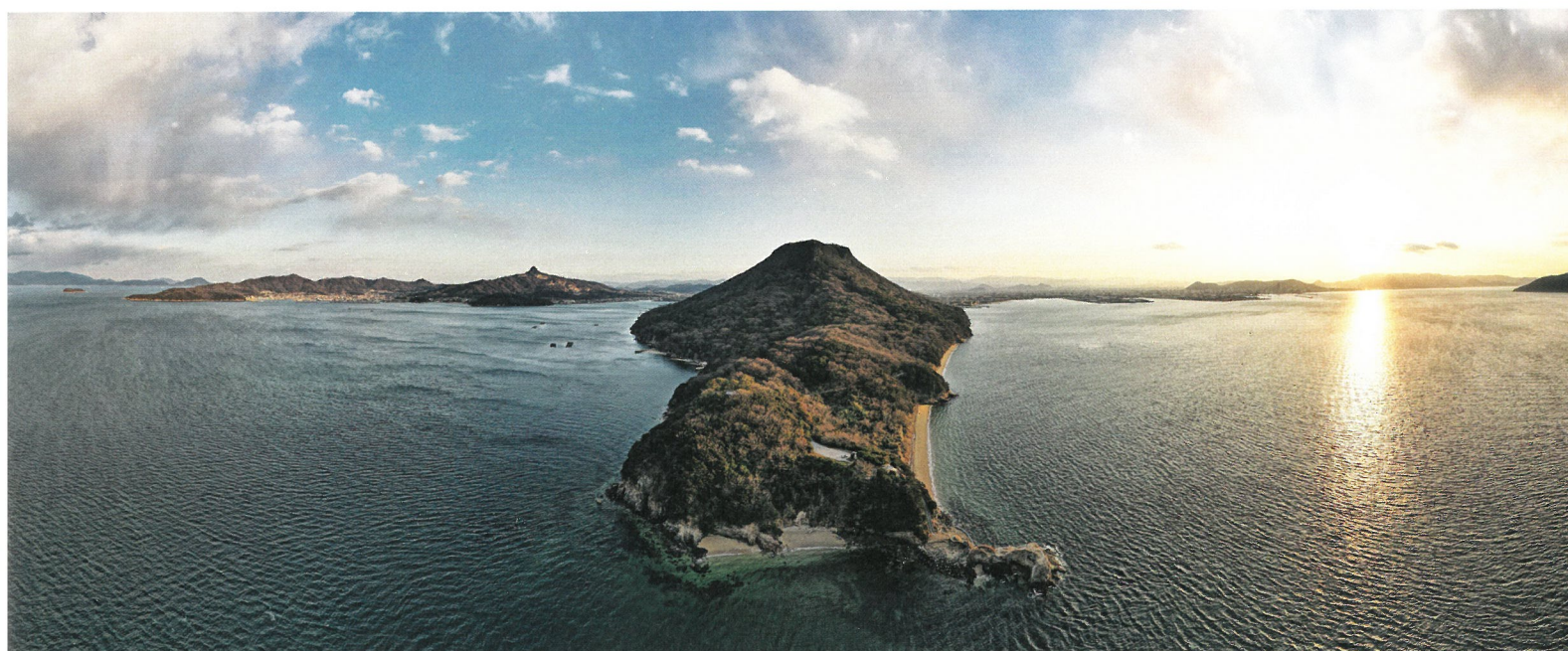


# NEWS

## The Kagawa Museum

vol. 57

香川県立ミュージアム  
ニュース  
2022 夏号



### Contents

#### 特集

特別展「せとうちの大地—美術の視点」

#### 夏休み子どもミュージアム

ミュージアムガイドンスvol.44

みんなで楽しむミュージアム

#### 展示室だより

夏を学ぼう! / 絵?ふしぎ

#### ミュージアムガイドンスvol.45

調査は続くよ、どこまでも

～「私の町にも映画館があった」後日談～

#### れきみんだより

くらしの道具にみられる表示

本作は、高松市内をはるか上空から捉えています。実は、この写真には屋島や五剣山、高松市街が捉えられているのですが、全く違った表情が伺えます。よく見るとそこには別の真実が確かにあるということに気付かされます。 撮影:宮脇慎太郎 2021年

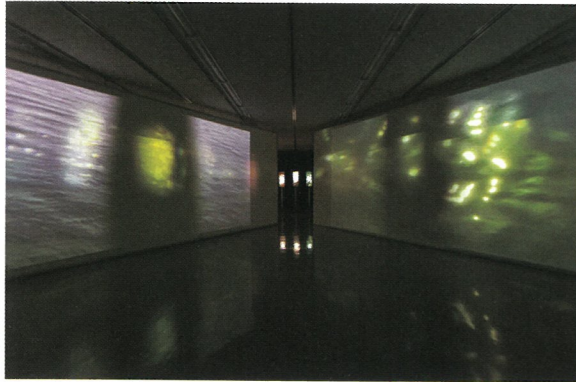
瀬戸内国際芸術祭2022

特別展 **せとうちの大地 美術の視点**

会期 8月5日(金)~9月4日(日)  
 会場 特別展示室、常設展示室4・5  
 開館時間 9:00~17:00  
 会期中の毎週土曜日(8/6・13・20・27、9/3)は~20:00  
 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日  
 観覧料 1,000円、前売・団体800円  
※瀬戸内国際芸術祭パスポート提示で団体料金  
 ※高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

この特別展は、香川県出身あるいは、これまで瀬戸内を活動の拠点とした経験のある美術家や写真家、映像作家、デザイナーなどによって、美術にまつわる様々な視点から瀬戸内をイメージしてもらおうとする試みです。10人の作家たちが、それぞれの個性を遺憾なく発揮した特徴的な捉え方に着目することで、瀬戸内沿岸に居住する私たちの生活を客観的な立場で見直すきっかけにもなると考えています。ふだん見過ごしがちな風景や事象も、実は長い歴史の積み重ねとともに人々の生活に反映された文化的資産として所在しています。この瀬戸内は常に生き物のように呼吸し続け、現代にまで繋がっていることを作家たちは見逃すことはないでしょう。



宮脇慎太郎 [みやわきしんたろう] 写真家

- 1981 香川県生まれ 大阪芸術大学写真学科卒業後、日本出版、六本木スタジオなどを経て独立
- 2009 高松市に拠点を構え「せとうち暮らし」、「せとうちスタイル」、「IKUNAS」など雑誌で活動
- 2012 "Bookcafe solow" の運営を開始
- 2015 写真集「曙光 The Light of Iya Valley」出版
- 2019 「霧の子供たち」を出版
- 2020 香川県文化芸術新人賞受賞
- 2022 「UWAKAI」出版
- 瀬戸内国際芸術祭2016、2019、2022 公式カメラマン

浅見貴子 [あさみたかこ] 日本画家

- 1964 埼玉県生まれ
- 1988 多摩美術大学美術学部絵画科卒業
- 2004 文化庁新進芸術家国内研修員
- 2007 文化庁新進芸術家海外研修員
- 2008 文化庁新進芸術家海外研修員としてInternational Studio & Curatorial Program(ニューヨーク)参加
- 2010 「ARKO (Artist in Residence Kurashiki, Ohara 2010)」で滞在制作(岡山)
- 2018 「第7回東山魁夷記念 日経日本画大賞展」で大賞受賞
- 2019 「植物の力ー The power of plants」拡大する日本画 岩田壮平 浅見貴子 香川県立東山魁夷せとうち美術館(坂出)
- 2021 「ビジュツカンノススメ アートを楽しむ4つのヒント」 横須賀美術館(神奈川)



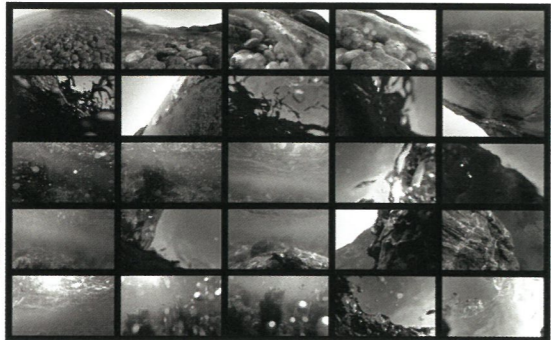
撮影:全田幸三



「ビジュツカンノススメ」横須賀美術館 撮影:長塚秀人

北村大樹 [きたむらだいき] 音楽家

- 1981 香川県生まれ
- 2016 瀬戸内国際芸術祭 feel feel BONSAI | 平尾成志 ×瀬戸内工芸スに音響で参加
- 2017 香川県立ミュージアム 「CROSS POINT」にて得丸成人の「HANDS」に音響で参加
- 2019 瀬戸内国際芸術祭 星川雅未「天盆ten-bon/水盆 sui-bon」に音響として参加 DOMMUNE SETOUCHI 宇川直宏 nami 出演

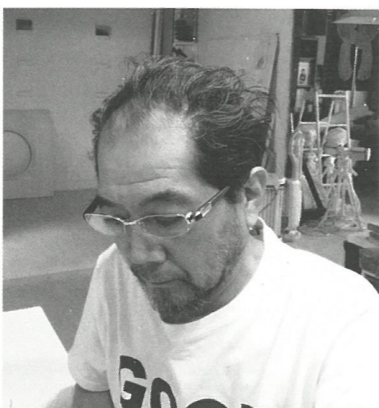


得丸成人 [とくまるなるひと] デザイナー、映像作家

- 1975 香川県生まれ
- 1998 フリーランスデザイナー
- 映像表現VISUAL JOCKYを始める。視覚デザインを軸に、雑誌・書籍のディレクションやステージの映像演出などを手掛ける。
- 2008 「MIDZONE COUNTDOWN PARTY」映像演出(マレーシア)
- 2017 「CROSS POINT」 香川県立ミュージアム(高松)

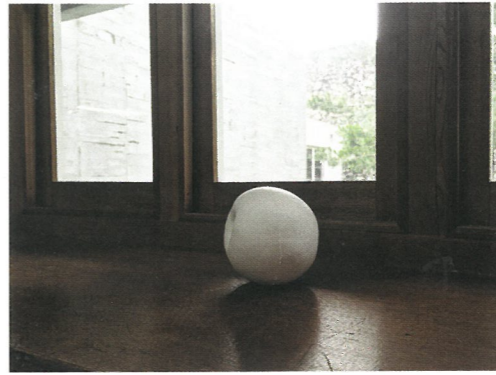
藏本秀彦 [くらもとひでこ] 美術家

- 1965 香川県生まれ
- 1989 筑波大学大学院芸術研究科修士 学生の頃よりクラコフ国際版画トリエンナーレなど版画領域で独自の手法が目される
- 1998 「VOCA'98 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)
- 2016 「藏本利彦+藏本秀彦 絵画展ー思考の断面、記憶の輪郭」坂出市民美術館(坂出)
- 2017 「CROSS POINT」香川県立ミュージアム(高松)
- 2018 「高松市美術館コレクション+木村忠とこぼれる光の中で」高松市美術館(高松)
- 2021 「国讃めと屍」瀬戸内海歴史民俗資料館(高松)



あらゆる表現を駆使して、私たちの五感を刺激する作品群は、視覚のみならず音や映像、光の織りなす情景を描き出されることで瀬戸内の魅力を引き出します。

(美術コーディネーター 田口 慶太)



水谷一 [みずたにはじめ] 美術家

- 1976 三重県生まれ
- 2008 アーティストと批評家の協働企画「引込線(所沢ビエンナーレ)」参加(~2019)
- 2009 神山アーティスト・イン・レジデンス(徳島)
- 2010 「VOCA 新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)
- 2013 瀬戸内国際芸術祭(粟島)
- 2017 高松アーティスト・イン・レジデンス
- 2019 文化庁新進芸術家海外研修制度によりベルリンに一年間滞在
- 2020 富士の山ビエンナーレ(静岡)
- 2021 「イタリアの三日目」Azumatei Project(神奈川) 国讃めと屍 瀬戸内海歴史民俗資料館(高松)

NISHI DESIGN. 宮武かおる

[みやたけかおる] デザイナー

- 香川県生まれ
- 高松工芸高校美術科卒業
- 日本大学芸術学部美術学科VCD専攻卒業
- 株式会社ボー化工業入社(デザイン研究所)
- 1997 西浩毅とともに西デザインを設立 JPC日本印刷産業連合会長賞 受賞 Pentawards Luxury部門 Bronze賞 受賞
- グラフィックデザイン、パッケージデザイン、公共・企業のVI・ロゴデザイン、美術館・病院等のサインデザインを手掛ける



撮影:飯川雄大



矢野恵利子 [やのえりこ] 美術家

- 1987 香川県生まれ
- 2010 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科陶磁コース卒業
- 2011 個展「続きのまたつづき」GALLERY RUVENT(東京)
- 2012 個展「eigo-no-damei」ギャラリー子の星(東京)
- 2013 瀬戸内国際芸術祭(男木島)
- 2017 アーティスト・イン・レジデンス 大洋荘(福岡)
- 2018 アイルランドへ渡航(~2019) Professional Art Studio at Stradbally Art house/ 個展「HOLIDAY MACHINE」The Guesthouse Project(アイルランド)
- 2020 アーティストスペース[Zunzun-planC](高松) 共同設立、展覧会等の企画を行う。(~2022)
- 2021 アーティスト・イン・レジデンス/ 個展「NEVER UNDER CONTROL」 鴨江アートセンター(静岡)

三村昌道 [みむらまさみち] 美術家

- 1965 香川県生まれ
- 1991 多摩美術大学絵画科油画卒業
- 1996 コバヤシ画廊(東京)
- 2002 神山アーティスト・イン・レジデンス(徳島)
- 2007 「川島猛とアートフレンズ」高松市石の民俗資料館(高松)
- 2010 個展 劇場「寄井座」(徳島)
- 2016 坂出アートプロジェクト「人工の地層と人の夢」
- 2019 アクリルガッシュビエンナーレ2018(東京)
- 2020 「三村昌道展 Step on the snow」 高松市塩江美術館(高松)



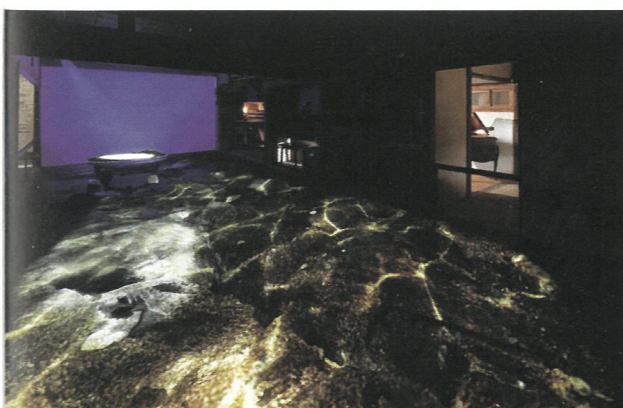
撮影:田中美句登



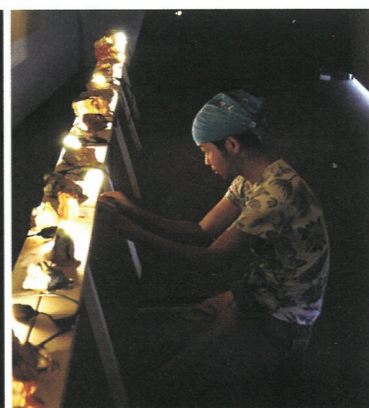
撮影:田中美句登

南条嘉毅 [なんじょうよしか] 美術家

- 1977 香川県生まれ
- 2002 東京造形大学研究科修士 「東京都渋谷区神宮前5-46-13」ギャラリーエス(東京)
- 2008 釜山国際環境芸術祭2008(韓国)
- 2013 個展「ーシンクロー風景の同時性」高松塩江美術館(高松)
- 2015 「AIR Nordland」ヌールランカルチャーセンター(ノルウェー)
- 2017 個展「ーoverlayー時層の風景ー」 Galerie Grand E' terna a Paris(フランス)
- 2019 個展「Roots of travel」アートフロントギャラリー(東京)
- 2021 奥能登国際芸術祭2020+(石川)
- 2022 瀬戸内国際芸術祭(春会期、沙弥島)



撮影:木島恵三



# 夏休み子どもミュージアム

7月18日(月・祝)～9月11日(日)

今年の夏は香川県立ミュージアムで楽しんでみませんか？ 展示にイベントに盛りだくさん。  
イベントの詳細は巻末のインフォメーションをチェック！

ミュージアムガイドンスvol.44

## みんなで楽しむミュージアム

### —“夏休み子どもミュージアム”を開催します

夏休みがやってきます。香川県立ミュージアムは、誰もが楽しく通える空間です。今回は子どもたちが楽しむミュージアムとして、その魅力をご紹介します。

まずは、なんとといっても展示室。当館には、香川の歴史と文化を知ることができる歴史展示室があります。原始、古代、中世、近世、近現代の順にコーナーが展開し、香川の歴史をわかりやすく紹介しています。時代順に並ぶ資料を見るだけでも、人々の生活の発展が身近に感じられます。発掘調査などの成果をもとにした実物大の竪穴住居や、県内に実在する蔵を元に再現した江戸時代の庄屋の蔵には、中まで入ることができ、そのスケールや建物の使い方が理解できるだけでなく、秘密基地のようでワクワクします。

香川出身の弘法大師空海の生涯と事績を紹介する展示室は、京都東寺の灌頂院(密教の重要な儀式を行うお堂)の実寸の70%スケールで柱や板壁、床も堂内そっくりに再現しています。国宝や重要文化財などの貴重な資料を忠実に模した複製の曼荼羅も展示され、お堂と同じ薄暗い空間での視覚体験ができます。

また、美術作品を紹介するアート・コレクションのコーナーでは、作品そのものの、色やかたち、線、筆あとなどをよく見て感じてもらえるように、あえて解説を少なくしています。

展示室だけでなく、直接触れて、理解を深める体験学習室はとりわけ、おすすめスペースです。ずっしり重くて美しい絹の十二単や金属や革でできた鎧かぶとは試着体験ができ、その着心地はまさにお姫様や武士の気分です。現在は新型コロナウイルス感染防止対策のため休止中ですが、

収束のタイミングをにらみ、いつでも安心して試着できるように準備してお待ちしています。

ミュージアムには、未来のおとなに知ってもらいたいこと、感じてほしいことがいっぱいあります。赤ちゃんや小さいお子さんと一緒にご家族で見て感じたことを自然に会話できる場所、特別なことがなくても通いたくなる場所となるように、工夫を重ねていきたいと思います。

さて、この夏は数年ぶりに歴史や民俗、美術を身近に楽しむ「夏休み子どもミュージアム」と題した展示を行います。展示とともに今さら聞けないおとなも聞きたくなる“解説会”や“鑑賞会”、ミュージアムの知られざる裏側を訪ねる“バックヤードツアー”のイベントも開催。暑い夏、クールシェア・ステーションとしてご利用いただきつつ、おとなも子どもも、「なんだか楽しい」をミュージアムで発見してみてください。

(主任専門学芸員 窪美 西嘉子)



子ども向けイベントの様子(平成29年開催)



展示室だより 常設展示室1

## 夏を学ぼう！

夏といえば、なにを思い浮かべるでしょうか。海水浴、花火、かき氷、宿題……。おとなには懐かしく、子どもには夏休みが楽しい季節です。小説、映画、マンガ、アニメでも夏を舞台にしたいろいろな物語が親しまれています。

本展では、夏にまつわる様々な資料を紹介します。お盆などの行事、涼を求める工夫、昔の子どもたちの夏休みについて学びながら、今と同じ部分、違う部分をぜひ探してみてください。

さらに、夏の代表的な遊び場である海水浴場の歴史を、香川県を中心に紹介します。近年はコロナ禍で開設されないこともあった海水浴場ですが、県内に20か所以上あります。津田の松原(さぬき市)、有明浜(観音寺市)といった有名なところから、今はない“幻”の海水浴場まで、絵葉書やパンフレット、チラシなどから紹介しま

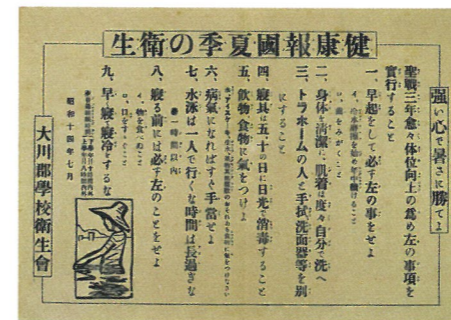


図画(海水浴) 昭和20～30年代 当館蔵

す。タイムスリップした気分、昔の海水浴場のことを学んでください。

当館で夏を学べば、今年はずっと一味違う夏になるかも！

(学芸員 黛 友明)



健康報国夏季の衛生 昭和14年(1939) 当館蔵

### 関連イベント

#### ミュージアムトーク

7月18日(月・祝)、9月11日(日) 各13:30～

#### 学芸講座「泳がず学べる!? 海水浴場の歴史」

7月23日(土) 13:30～15:00

詳細は巻末インフォメーションをご覧ください

展示室だより 常設展示室2

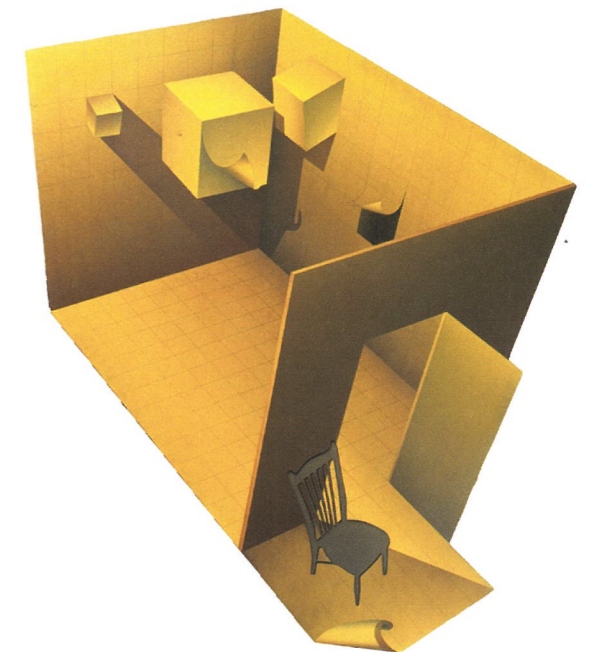
## アート・コレクション 絵?ふしぎ

絵といえばどのようなものを想像しますか? 額に入った四角いもの、平らなもの、油絵の具や水彩などで描いたもの……。人によって想像するものは違って来るかもしれません。しかし、中には不思議な形をしているもの、あっと驚く作り方をしているものなどがたくさんあります。「絵」といっても多種多様で、「え?」という驚きがそこには隠されているのです。

本展では、当館のコレクションの中からちょっと不思議な絵を、その「絵」の不思議をひも解くヒントパネルとともに紹介します。「何を描いているのか」「どのように描いているのか」…… 子どもからおとなまで、作品をじっくり鑑賞してみれば絵の「え!ふしぎ」を見つけてみませんか?

絵の形や色、質感、描いているものなど、色々な視点から絵を観察してみると、今まで気が付かなかったことを発見できるかも!

(専門学芸員 鹿間 里奈)



四宮全一 「ROOM・38 入ってゆく椅子」 昭和58年(1983) 当館蔵

### 関連イベント

#### ミュージアムトーク

7月24日(日)、9月3日(土) 各13:30～

## 調査は続くよ、どこまでも ～「私の町にも映画館があった」後日談～

昨年(2021年)秋に開催した常設展「私の町にも映画館があった」では、会期中たくさんの方にご覧いただき、ミュージアムトークも大盛況でした。SNSでも数多くの投稿があり、幅広い世代に反響が広がったことを嬉しく思います。



ミュージアムトークの様子

### 新たな聞き取り調査

展覧会では、当時の映写技師、下足係、看板師など映画館に携わっていた方々の来館もありました。様々な職種の人たちから当時の様子をうかがうことで、さらに研究が深まりました。

その中で、高松市片原町で映画館「グランド劇場」を営まれていた方とつながりができました。詳しい聞き取り調査の結果、昭和の終わりから平成にかけての映画館事情が判明しました。パブル期の片原町再開発計画、歩合制によるフィルムの買付けと映画会社との関係、シネマコンプレックス進出による系列映画館の閉館など、映画館と経済の関連性が見える新たな証言を得ることができました。

### 資料の収集、保管へ

今回の展示がきっかけで、当館に寄贈いただいた資料もあります。高松市一宮町にあった映画館「映楽館」で使用していた入場券やポスターなどです。寄贈者の父親が映画館を営んでおり、「今では映画館の存在を知る人も減



寄贈された入場券

り、地域の歴史を伝えることができるなら。」と、貴重な資料を寄贈いただきました。

また、高松市内の映画館のチラシを寄贈したいという申し出もありました。その数なんと300枚以上。昭和20年代から30年代の高松市内での上映映画が分かる資料で、現在1枚ずつ丁寧に調査しながら、受け入れに向けた準備を進めています。

### 地域との連携

2年ほど前から、展示に向けて観音寺市と連携を進めました。当時の映画館関係者や資料をお持ちの方を紹介いただき、時には市職員の方と一緒に聞き取り調査を行いました。

さらには、観音寺市発行の「広報かんおんじ令和3年11月号」において、香川県立ミュージアム展覧会関連企画「特集 時にはキネマの話を」と題した10ページ以上にわたる記事が掲載されました。この特集は大きな反響を呼び、市役所に新情報が寄せられ、看板師の方への聞き取りや、未公開写真の確認など、その後も調査が進められました。市の担当者の熱意と当館に蓄積されている情報力、地域のネットワークすべてが組み合わさって成功した取り組みだと感じています。

なお、本展で展示した個人資料の一部は、観音寺市ふるさと学芸館で管理されることとなり、地元での活用が期待されています。

展覧会は、これまでの調査研究を広く知っていただく大切な機会です。加えて、展示をきっかけに、新たな情報が提供され、新資料の調査も続いていきます。展覧会は会期とともに終わりますが、当館のもうひとつの基本的機能である、資料の収集・保管事業へと、そしてさらに将来の展覧会企画へとつながっていくのです。

(専門職員 高木 理光)



写真「観音寺市内のキングゴングの看板」  
昭和29年(1954)  
観音寺市ふるさと学芸館蔵

## くらしの道具にみられる表示

当館収蔵の民俗資料を見ると、いくつかの資料に実用新案や特許の番号などが表示されているものがあります。今回のテーマ展「くらしの道具の技術革新」では、現代日本の技術発展の礎の一つとされる実用新案や特許の表示が記された資料を中心に紹介します。

### はじめに

今日の生活において欠かせない様々なくらしの道具や機械製品の多くは、同じものを作るために発明者に許諾を得る必要があるなど、発明に対する価値が保証されています。収蔵資料を丹念に見ると、「特許」「実用新案出願」「新案特許」などと書かれた近代から現代のラベルや焼印などの表示をもつ道具があります。

表示は、「特許法」「実用新案法」などにに基づき付されたもので、これらの制度は発明の保護などによって産業の発達を促すことを目的として明治維新後に整備されました。特許は新規かつ高度で産業上利用可能な【発明】を、実用新案は物品の形状、構造、組合せに関する【考案】を保護対象とし、国の特許庁(旧特許局)が厳格に審査し登録しています。

### 農具にみられる表示から

特定の農具には「大極上請合」や「本家」などの墨書き表示がされているものがあります。製造者が自らその品質が上等であることを保証したり、本家本元の老舗の製品で、品質は良いですよといったことを宣伝しているわけです。

明治時代に特許や実用新案の制度が始まると、その特許や実用新案番号を記したラベルや「実用新案出願中」というラベルも道具に付されるようになりました。それらは「大極上請合」の表示と同じような意味を持ちます。

図1はJR鴨川駅前(坂出市)にあった加藤商会が製造した牛がひいて田畑を耕す農具で、犁の持ち手に金属ラベル(図2)がつけられ、ラベルに「実用新案特許」、番号、製品名、製造者の氏名が書かれています。また、ここに表示された番号を調べることで、開発者や登録時期、発明や考案の詳細な内容が分かるものがあります。

### 香川県の明治時代の特許と実用新案の件数の多さ

特許や実用新案の出願件数を都道府県別に整理すると、明治40年(1907)の香川県は中四国9県で3位、全国でも16位となっており、全国的にも高い出願件数を誇っていたことが分かります。これは県内の農具をはじめとする道

具の技術開発が活発に行われていたことを示していると考えられ、こうした出願動向などを整理することで、香川の職人や中小工場の技術革新の内容、製品の開発競争などが見えてくると考えられます。

(瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員 真鍋 貴匡)

参考文献  
櫻井孝「制度創設期の我が国の実用新案制度について」『特許研究』No.58 2014年  
新農業新聞社出版所「日本農具要覧」1933年



図1 加藤商会の農具  
瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

図2 加藤商会の農具につけられたラベル

### 展覧会情報

「くらしの道具の技術革新—実用新案と特許—」  
第9・10展示室  
7月9日(土)～11月6日(日)

### 関連イベント

れきみん講座「くらしの道具と発明」 無料・要事前申込  
日 時:7月23日(土)  
午前の部10:00～11:00、午後の部13:30～14:30  
会 場:研修室  
講 師:真鍋貴匡(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員)  
定 員:各回14名(先着順)  
申込期間:6月23日(木)～、定員になり次第終了  
申込方法は巻末インフォメーションをご覧ください。

特別展「せとうちの大気—美術の視点」関連イベント

◎ラウンドトーク

無料・申込不要

作品や制作活動について出品作家たちが語り合います。

日時：① 8月6日(土) 13:30~15:00

藏本秀彦、南条嘉毅、水谷一、宮脇慎太郎、矢野恵利子

② 8月20日(土) 13:30~15:00

浅見貴子、北村大樹、得丸成人、三村昌道、宮武かおる

会場：2階 西ロビー

定員：30名(先着順)

夏休み子どもミュージアム

常設展「夏を学ぼう!」関連イベント

◎学芸講座「泳がず学べる!? 海水浴場の歴史」 無料・要事前申込

明治時代に登場し、各地に広まって、夏の風物詩となった海水浴場。その歴史を香川県を中心に紹介します。

日時：7月23日(土) 13:30~15:00

会場：地下1階 講堂

講師：黛友明(当館学芸員)

定員：100名(先着順)

申込期間：6月23日(木)～、定員になり次第終了

学芸講座の申込方法

電話、はがき、FAX、「かがわ電子自治体システム」(\*)を利用したインターネット

から。はがき、FAXの場合は氏名、電話番号、学芸講座名を明記してください。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課

TEL. 087-822-0247 FAX. 087-822-0049

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の「関連リンク」から「【香川県】電子申請のページへ」をクリックしてください。

◎夏休み子ども向けイベント

小学校3年生以下は保護者の同伴(1人につき1名まで)が必要です

1・2. 要事前申込 3~5. 申込不要(開始20分前から受付)

1. 有料 2. 無料 3~5. 無料(同伴者は要観覧券)

1. 「屋島の立体模型をつくろう」

源平合戦の舞台として有名な屋島は国の史跡・天然記念物です。屋島の立体模型を作って、その歴史と風土について学びます。

日時：7月30日(土) 13:30~15:30

会場：地下1階 研修室

講師：当館ボランティア・職員

対象：小学生

参加料：500円

定員：16名(申し込みが多い場合は抽選)

申込期間：6月24日(金)~7月15日(金) 必着



屋島の立体模型

2. 「ミュージアム☆バックヤードツアー」

ミュージアムのお仕事はバックヤードにあり!ふだん見ることができないミュージアムの舞台裏を学芸員と探検します。

日時：8月10日(水) ①10:00~ ②13:30~ 各90分程度

集合場所：1階エントランス

対象：小学生

定員：各回10名(申し込みが多い場合は抽選)

申込期間：7月7日(木)~7月28日(木) 必着

1・2の申込方法

往復はがき、「かがわ電子自治体システム」(\*)を利用したインターネットから。

1回2名まで申し込み可。往復はがきの場合は、氏名、住所、電話番号、学年、イベント名(2は希望の時間も)を明記してください。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課

3. 「歴史を探検☆1 高松城下をのぞいてみよう」

江戸時代の前半に描かれた高松城下図屏風の大型シートを用いて、城下のようすをくらしを探ります。

日時：① 8月11日(木・祝) 10:00~

② 8月13日(土) 13:30~ 各40分程度

会場：3階 歴史展示室

対象：小学生(高学年向け)

定員：各回10名程度

4. 「歴史を探検☆2 夏を学ぼう! 解説会」

常設展「夏を学ぼう!」を学芸員と一緒に見学します。あわせて、ちょっと昔の夏も体験します。

日時：① 8月11日(木・祝) 13:30~

② 8月13日(土) 10:00~ 各40分程度

会場：2階 常設展示室1

対象：小学生

定員：各回10名程度

5. 「美術を探検★ 絵?ふしぎ鑑賞会」

常設展「絵?ふしぎ」を学芸員と一緒にじっくりながめて、おしゃべりしながら、ふしぎな絵のからくりをひもときます。

日時：① 8月12日(金) 10:00~ ② 8月12日(金) 13:30~

③ 8月14日(日) 10:00~ ④ 8月14日(日) 13:30~ 各40分程度

会場：2階 常設展示室2

対象：①・④ 小学校1~2年生

②・③ 小学校3~6年生

定員：各回10名程度

瀬戸内海歴史民俗資料館

瀬戸内ギャラリー 第6回企画展

◎大人も楽しめる昆虫のファッションショー — 自然の芸術祭 —

会期：7月9日(土)~9月11日(日)

会場：第1展示室中2階 瀬戸内ギャラリー

協力：瀬戸内むしの会

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント

◎瀬戸内ギャラリー ミニ講座

無料・要事前申込

瀬戸内地域の自然環境と昆虫について、瀬戸内むしの会の出嶋利明氏にお話しいただきます。講座が終わった後に、ギャラリーの展示解説を行います。

日時：7月31日(日) ミニ講座 10:00~10:50 展示解説 11:00~12:00

会場：研修室

講師：出嶋利明氏(瀬戸内むしの会)

定員：14名(先着順)

申込期間：7月5日(火)~、定員になり次第終了

◎れきみん常設展示解説ツアー

無料・要事前申込

瀬戸内海の漁撈用具や船を紹介する常設展示室と、瀬戸内ギャラリー企画展、テーマ展について、館内をめぐるながらじっくり解説します。

日時：8月21日(日) 午前の部9:30~11:30、午後の部13:30~15:30

定員：各回15名(先着順)

申込期間：8月2日(火)~、定員になり次第終了

イベントの申込方法

電話または直接来館で。

申込の際に、氏名、電話番号、イベント名(午前・午後)をお伝えください。

申込先：瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL:087-881-4707

カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとつときに、カフェポット

ミュゼをご利用ください。

営業時間：9:00~17:00

(オーダーストップ 16:30)



ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。

営業時間：9:00~17:00

夜間閉館の日は9:00~20:00

